

おおさか  
**KEY**  
わーど  
第2回

# 大阪が沸騰した記憶

— EXPO'70から40年

EXPO'70 - 日本万国博覧会から40年の歳月が過ぎた。“人類の進歩と調和”をテーマに1970年(昭和45)、岡本太郎の「太陽の塔」をシンボルに未来都市を思わすパビリオン群が千里丘に出現する。総入場者数6,422万人は万博史上最多である。大阪中が沸騰した巨大なイベントだった。

三田誠広著『堺屋太一の青春と70年万博』(出版文化社)には、官僚時代であった作家の堺屋太一氏が大阪への国際博誘致を提案し、実現に奮闘したことが記される。背景には、故郷である大阪の政治経済や文化的地盤沈下を挽回したいという同氏の強い思いがあった。一方、当時は学園紛争もたけなわで、前年の1969年(昭和44)の夏、「反戦のための万国博」(ハンパク)の集会が大阪城公園で開かれた。この時に大学生であった“団塊の世代”には、いまも「反博」に近いまなざしで大阪万博を眺める人も多いかもしれない。

大阪に育ち、1970年に中学生に進学した私や、小学生であった弟たちの世代にとってEXPO'70は、未来社会への憧憬と疑似体験の驚きに充ちた世界であった。万国博中央口駅か、万国博西口駅で降りると、パビリオンが建ち並び、映像と音響が氾濫していた。白いドームのフランス館と青いドームの西ドイツ館、鏡のカナダ館、もみの巨木で建てられたプリティッシュ・コロンビア州館。火山の噴火や怒濤が壁面に映写されて迫りくる三菱未来館、全天全周映画アストロラマのみどり館、横尾忠則がデザインした日本繊維館はサイケデリックな時代の空気を反映していた。アメリカ館は東京ドーム先取りのエア・ドームであり、眼が

気球にあるリコー館は癒し系パビリオン、ガスパビリオンは「笑いの世界」をテーマとし、いま国立国際美術館にあるミコの陶板壁画が展示されていた…。

昨年、大阪万博とその時代を題材に近未来社会を描いた浦沢直樹の「本格科学冒険漫画 20世紀少年」がヒットして映画化された。ランニングシャツの小学生が空き地を駆け回った時代からバブル崩壊にカルト教団、日本社会や世界情勢の変化も巧みにとりいれ、少年時代からの友情や憎悪を軸に組み立てた物語はすばらしく面白い。加えて主人公たちが私と同世代で、私も少年時代に万博を夢見た「20世紀少年」のひとりであったことを認識させられた。

日本万国博覧会は、現代まで大阪の街や社会、大阪人に重大な影響を残している。しかし、エキスポカフェの開店や万博関係の出版物も出ているが、正面切って大阪万博を語る機会は少なかった気がする。万博後の生まれでは、「水都大阪2009」で市庁舎に巨大な《ジャイアントトラヤン》を展示した現代美術のヤノベケンジ氏が、少年時代に会期終了後の博覧会跡地で遊んだ体験から、それを「未来の廃墟」と見なして創作活動をはじめたことが知られるが、さらに若い世代には当時の日本の熱狂ぶりは想像できないようである。

上海万博開催の今年、千里の万博公園に残された鉄鋼館が、万国博の資料館「EXPO'70パビリオン」としてリニューアルオープンした。東京一極集中が進んで遅すぎるかもしれないが、大阪の未来に希望をつなぐために、40年前の大阪の“沸騰”がなんだったのか、原点から再検証する必要もあるのではないか。皆さんどう思いますか？

## 筆者プロフィール

橋爪 節也 はしづめ せつや

大阪大学総合学術博物館教授 / 大学院文学研究科(兼任)。1958年、大阪市生まれ。東京芸術大学大学院修了。大阪市立近代美術館建設準備室主任学芸員を18年間つとめ現職。専門は日本美術史。展覧会では「没後200年記念 木村兼葎堂 なにわ 知の巨人」「北野恒富展」「没後80年記念 佐伯祐三展」などに携わる。編著に『大大阪イメージ 増殖するマンモス / モダン都市の幻像』(創元社)など。

## イベント情報

大阪大学総合学術博物館第11回企画展・適塾特別展示  
緒方洪庵生誕200年記念・大阪大学創立80周年イベント

### えがかれた適塾

江戸時代の蘭学者、緒方洪庵の生誕200年を記念して、洪庵が開いた蘭学塾・適塾の史料を、適塾をえがいた小説や漫画、映画などを手がかりにたどる展覧会が開かれます。

手塚治虫作品からは、手塚の曾祖父手塚良庵が適塾に入塾する『陽だまりの樹』から、原画などが展示される予定です。

入場料は無料。ミュージアムレクチャーも聴講自由です。

## 展覧会

開催期間:2010年4月27日(火)~6月26日(土)10:30~17:00(日祝休館)

開催場所:大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階

ミュージアムレクチャー(会場は第24回のみ豊中キャンパス内イ号館。他は館内にて)

第24回 5月15日(土)13:30~15:00 深瀬泰旦氏(順天堂大学医学部医史学研究室・日本医史学会理事)  
「『陽だまりの樹』と蘭方医手塚良仙」

第25回 5月29日(土)13:30~15:00 橋本孝成氏(適塾記念会資料専門員)  
「近世大坂の学問と適塾」

第26回 6月19日(土)13:30~15:00 海原亮氏(住友史料館研究員)  
「適塾と都市大坂の医療環境」

問合せ 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

大阪府豊中市待兼山町1-20 電話:06-6850-6284

